

今後の緑花に応用できる 草花とグランドカバープランツ

雪印種苗(株) 千葉研究農場

立 花 正

1 はじめに

つい最近まで、我が国は生活の利便性の向上を求め、また、農業国から工業国へ転換を図るため急速に都市開発が進められてきました。

その代償として、我々が最も大切にしなければならぬ『緑』が減少の一途をたどっていましたが、近年、生活の中に潤いを求めるため『緑』を積極的に導入しようとする気運が高まり、その一例として、建設省は『21世紀 緑の文化形成を目指して』という大項目から『環境政策大綱』を作成し、また、東京都においても『森の再現事業』のために全国各地から多数の樹木を集め、大規模な緑地を造成しています。

さらには、まだ緑が豊富な地域においても開発に伴う『緑』の減少をくい止めるため、開発と平行して『緑』を守るための緑化技術やそれに利用される導入草種に様々な工夫がなされています。

このように、各方面において自然景観の再現と景観の改善を目指しての各種事業が行われています。これらが成功するか否かの一つに利用する樹種、草種の選定があります。

今回は、今後の緑花に大いに応用できると考えられる草花とグランドカバープランツの一部をご紹介します。

2 草花、グランドカバープランツの紹介

1) 草花

種子から播いて草花を利用する場合は、多種類の草花を混播（ミックスフラワー）する方法と単一草種を利用する場合があります、これらのミックスフラワーと単一草種を上手に組み合わせることによって、いろいろなパターンの緑花が可能になります。

(1) ミックスフラワーによる緑花

近年、各種場面において大いに注目されているミックスフラワーによる緑花は一言で表現すると『種子で容易に繁殖できる園芸用草花または野生草花を数種類ミックス（混播）して用い、長期間にわたって各種の草花を鑑賞できる草花景観を作出する方法』です。

各種ミックスフラワーを上手に利用することによって、草花による景観の改善が長期間可能になり、そのためには緑化する地域、場所、目的に応じて、そのミックス内容をかえる必要があります（表1参照）。

表1 「スノーミックスフラワー」タイプ一覧表

		北 海 道 向 け	府 県 向 け	
			一 般 地 域 用	西 日 本 地 域 用
長期利用	1年草 + 多年草 ミックス	スノーレインボー (オールラウンド) レインボーカーペット (矮性)	トール (春秋播き別) ロー (//) ハイランド (寒高冷地) ポピュラー (経済的) カーペット (矮性)	緑化・植生用(タイプ1) 緑化・植生用(タイプ2) ポピュラー ハイランド
	短期利用	1年草 ミックス	エレガンス (高性) ファンタジー (矮性) スーパーグラデーション(コスモス)	春物語(秋播き、3タイプ) 夏物語(春播き、2タイプ) コスモス物語 (3タイプ)

(2) 単一草種による緑花

ミックスフラワー以外に単一の草花を用い広範囲の緑花を行うことも可能です(写真4, 5参照)。種子で比較的容易に造成でき、かつ、草丈の低い代表的な草種は以下の3草種があります。

① ヒメナデシコ (写真1)

陽地から半陽地を好み、草丈は10~15cm程度です。品種の数はあまり多くなく、花色は赤系統が主体です。開花盛期を過ぎ花柄が目立ち始めたら、花柄部分の刈取りを行なったほうがその後の生育が良く、また見栄えも良くなります。

② サボナリア (写真2)

陽地から半陽地を好み、花色は桃色となります。

③ ナツユキソウ (写真3)

陽地から半日陰を好み、草丈は15cm程度。



写真3 ナツユキソウの葉と花

花色は白色を呈しており、また、葉も白色を呈しているので花と葉の両方を鑑賞できます。

2) グランドカバープランツ

グランドカバープランツとは地表面を密に覆い、草丈が低く、美しく、かつ、機能的に被覆するこ



写真1 ヒメナデシコの花



写真4 のり面へのナツユキソウの施工例



写真2 サボナリアの花



写真5 ナツユキソウ (白), サボナリア (ピンク), ヒメナデシコ (赤) の施工例

とが可能な草種の総称です。したがって、広義には草本類(下記参照)、低木類(エリカ、コニファー等)、つる性植物(ナツツタ、ヘデラ等)、芝草類等が含まれますが、今回は草本類、芝草類についてご紹介します。

以下に、弊社(北海道輪厚G・T試験地)で行われている試験の中から、草丈が低く、刈取り等の手間がかからず、かつ美的に優れると考えられる代表的な草花とローメンテナンス管理が可能な芝草の一般特性について記載します。

(1) 草本類

① シバザクラ

多数の分枝を出し、密生して地上を覆い、草丈は10~15cm程度。陽地から半陽地を好み、北海道の代表的なグランドカバー植物です。

品種が多くあり、いろいろな花色の組み合わせが可能であり、被覆速度は速いが、早春または開花終了後に追肥をすることによって更に生育を旺盛にすることができます。m²当たり25~64株の栽植が必要です。

② イブキジャコウソウ(写真6)

茎葉に芳香があり、キメの細かい葉で地面を低く覆います。乾燥にも強く、適潤地では急速に被覆し、花色は紅紫色が主体です。開花期も比較的長い。

③ アジュガ(写真7)

半日陰を好みますが、日なたや日陰でも生育は可能です。地上匍匐茎で広がり、肥



写真6 イブキジャコウソウ



写真7 アジュガ



写真8 シルバータイム



写真9 エゾミソハギ

沃で土壌が軟らかく湿り気のある土壌を特に好みます。花色は紫が一般的であり、葉は暗紅紫色を呈する。十分被覆されない場合は、匍匐茎から発生した新しい株によって容易に補植ができます。

④ シルバータイム (写真8)

葉に白の筋が入るため全体に白色を呈し、日なたを好みます。葉茎に芳香があり、生育速度は比較的早いですが、栽植時に密植することによって早期の緑化ができます。

⑤ エゾミソハギ (写真9)

陽地で湿り気のある土壌を特に好み、草丈は約1 mほどになりますが、1株が密生した状態にはならず、また倒伏にも強い。花色は紅紫色。株分けでの増殖が一般的ですが、種子による増殖も可能です。特に湿地での群植に適します。

(2) 芝草類

広範囲な公園、多目的広場の緑花を行う際には必ず、“芝生広場”が中心に造成されることが多く、大面積であるために、刈取り頻度が少ない草種・品種が望まれます。近年は品種改良によってその要望を実現できる品種が開発されています。

① 暖地型芝草 (夏芝)

★野芝, 高麗芝

関東以西で利用頻度の高い暖地型芝草の代表草種です。特に暑さに強く、また日本に古くから定着しているローメンテナンスな草種として、主にゴルフ場や公園芝、家庭芝として利用され、また野芝は近年アメリカでも、“ゴールドエンターフ”として注目されている草種です。これらは種子からの造成よりソッド(切芝)での造成が主体となります。



写真10 緻密な芝地を形成し、管理の手間のかからないセンチピードグラス



写真11 干ばつに強く、速やかに芝生を形成するシャイアン

★センチピードグラス

種子から比較的容易に造成が可能です。芝質は野芝に近くやや粗な感があります。やせ地でも良く育ち、また病害にも強く、野芝と同様にローメンテナンス管理ができます(写真10)。

★バーミューダグラス

ティフトン芝とも呼ばれ、生育旺盛で踏み付けにも強いいため、利用頻度の高い場所での利用に適します。ソッドや苗での利用が主体です。『シャイアン』(写真11)は芝質はティフトン系のバーミューダグラスよりやや粗いですが、種子から容易に造成が可能な品種です。

② 寒地型芝草 (冬芝)

寒地型芝草は一般的に北海道、東北等の寒高冷地の涼しい地域での栽培に適し、また種子からの造成が容易で、かつ芝質は極めて良く、ソフトな芝生となります。しかし、前述の野芝、高麗芝等に比較すると成長が早く、刈取り頻度は多くなります。

★ケンタッキーブルーグラス

寒地型芝草の中での主体草種です。数多くの品種がありますが、「リムジン」は従来品種に比較して刈取り頻度を少なくすることを可能にし(図1, 2), また「スノーK B II」(写真12)は耐暑性が強く、東北以南の温暖地での栽培を可能にしています。

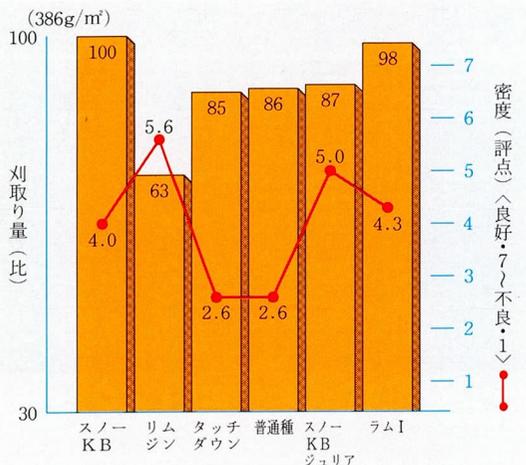


図1 各刈取り時の刈取り量の合計比と密度(評点)
 (輪厚試験地 1993年 10回刈取り)
 スノーKB(386.0g)を100%とした。



写真12 耐暑性の強いスノーKB II (左のワク内)

設計の中に15~20%程度の混播をして利用します。

3 おわりに

我々が生活の利便性を追及していく中において、『緑』(自然)に対しての開発行為は避けて通れない過程であると思います。しかし、そのような中で、なんらかの方法によって『緑』を再現していくことが我々の義務ではないでしょうか。可能であれば開発行為後も元の『緑』が再現できれば嬉しいのですが……大いなる困難が予想されます。

そのような『緑』を再現、創造する際に今回紹介したような緑花用植物を利用していただければ幸いであり、また、栽培しやすい園芸種(スイセン、チューリップ、ムスカリ等)や樹木(花が咲き、紅葉するもの)を組み合わせることによって、1年を通して『緑』は身近なものになると考えます。

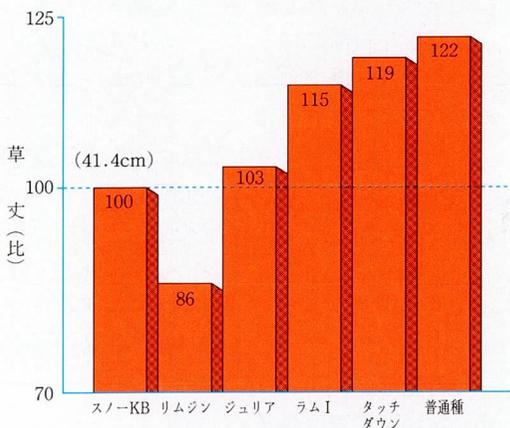


図2 各刈取り時の草丈の合計比
 (輪厚試験地 1993年 10回刈取り)
 スノーKB(41.4cm)を100%とした。

★トールフェスク

寒地型芝草の中では耐暑性があり、脊薄土壌でも生育が旺盛な草種ですが、やや芝質は粗いため補助草種として用いられることが多く、前述のケンタッキーブルーグラスと混播して利用します。「ピクシー」等の矮性品種を利用することによって刈取り頻度を下げることが可能です。

★ペレニアルライグラス

トールフェスクと同様に補助草種としての利用が多く、初期生育が早いいため、混播

